

## 令和8年度 指定研究計画書（英語指導法改善研究）

### 1 研究主題名：

他者を意識して、自分の思いや考えを伝え合うことができる児童の育成  
—外国語でのコミュニケーションを楽しむ授業づくりを通して—

### 2 研究主題設定の理由

現代社会は知識基盤社会であり、こうした社会認識は今後も継承されるべきものである。一方で、近年、情報化やグローバル化といった社会変化は予測を超え、加速度的に進展するようになってきている。こうした時代を生き抜く子どもたちには、未知の世界を切り開くたくましさが不可欠である。主体的に社会と向き合って関わり合い、自ら問いを立て、他者と協働しながら新たな価値を生み出していくことが求められる。

外国語・外国語活動は、外国語を用いた対話を通じ、コミュニケーションを楽しむことのできる児童の育成をねらいとしている。特に、「話すこと」の領域が[やり取り]と[発表]に整理された意図を汲み、話しやすさや分かりやすさなどを伴った思考・判断・表現を促すことで、コミュニケーションの素地(基礎)となる資質・能力を育成したい。

本校においても、宜野湾市のこれまでの取り組みを活かし、高学年は教科としての外国語の定着と評価を充実させ、低中学年は外国語活動の再構築を図る。英語を用いた、思いや考えを伝え合う言語活動を通して、自他を尊重する姿勢を育むとともに、相手の言葉を深く理解しようとする態度や、既習事項を活用してみ時からの思いを伝えようとする姿勢を重視する。こうした体験を通じ、言語によるコミュニケーションの難しさや大切さを実感させ、人と関わることの豊かさを感じられるようにしていきたい。

以上のことから外国語・外国語活動のメインテーマを「他者を意識して、自分の思いや考えを伝え合うことができる児童の育成」とし、サブテーマを「外国語でのコミュニケーションを楽しむ授業づくりを通して」とする。

### 3 学年・領域

高学年は教育出版社の教科書『ONE WORLD Smiles』を活用し、教科としての外国語を実施し、中学年は文科省発行の『Let's Try』を活用する。外国語・外国語活動を「思考・判断・表現」する場面を設定し、尋ね合い伝え合い、コミュニケーションを楽しむこととする。教師自身が学びのモデルとして授業実践し、外国語・外国語活動を楽しんでいきたい。

低学年	中学年	高学年
<p>・あいさつ(自己紹介)・気持ち・天気・曜日・色・形・くだもの・野菜・動物・体の部分・数・伝統行事</p> <p>※絵本を活用した授業</p> <p>※体を動かす活動 (歌・ダンス)</p>		

- ◎自分自身のことを伝え合う活動
- ◎他者を意識したコミュニケーション活動
- ◎主体的に考え表現する場面の設定

### 4 研究主任と組織

- ①外国語担当・・・宜野湾市教育委員会と連携し、外国語・外国語活動の推進を行う
- ②学級担任(HRT)・・・外国語・外国語活動の授業と評価を行う  
(低中学年：文章表記 高学年：評価)
- ③ALT・・・授業での HRT の補佐を行い、授業で活用する教材づくりを行う

◎HRT：授業をデザイン・学習モデル

◎ALT・HRT：コミュニケーションの相手

◎ALT と HRT の役割の分業と共同

## 5 年間研究計画

	英語授業		宜野湾市特例地域	学校行事
	5年6年	1~4年		
1学期	HRT ALT	HRT ALT	<b>【4月】</b> ALT 研修  <b>【5月】</b> 英語主任研・予算説明会 特例地域研修案提出 ○教育委員会による ALT 授業参観	4/8 1学期始業式 4/9 入学式   7/18 1学期終業式
2学期			○教育委員会による ALT 授業参観 ○教育委員会による研修会  <b>【12月】</b> 英検 Junior(5・6年) 英会話形成テスト(1~4年)	8/28 2学期始業式  10月 ALT 授業参観 11/7 運動会 12/25 2学期終業式
3学期			<b>【1月】</b> 特例地域事業報告提出  <b>【2月】</b> 指定研究実績報告書提出	1/6 3学期始業式  3/18 卒業式 3/19 修了式・離任式

## 6 校長所見

本校は、宜野湾市の特例地域として第1学年から6年生まで、英語によるコミュニケーションに取り組み、多文化共生社会づくりの基盤としての基礎的な部分を担っている。年齢に合った教材選定や子どもが自ら伝えたいような場面の設定、実体験を言語化する活動など異文化理解や言語に親しみながら楽しく学ぶ機会を授業を通じてつくっていきたい。また、これからの多文化国際社会を生きる児童の資質・能力の育成をめざし、「英語」以外の言語であっても主体的にコミュニケーションを図ろうとする意思表示（学びに向かう力・人間性）や共に活動することで分かり合える良さを感じてもらいたい。